

公園をみる・観る

～ はね 2 枚揺れて天下の秋を知る～

今年の夏はまったく元気の無い夏だった。8月はほとんど毎日雲が広がりよく雨が降った。今夏の平均日照時間は例年の30%あまりだそうだ。そんな夏の後でも秋は順調にやって来る。

干潟にはシギやチドリが渡りのひと時、体を休めカニや小魚を漁っている。今年はオグロシギやエリマキシギ、世界に500羽くらいしかいないカラフトアオアシシギも来ている。汽水池にはカモモチラホラ見かけられるようになった。

植物達もさりげなく秋色の衣装に着替えは始めている。公園西側、トンボ池に至る道はハギ街道と名づけられており毎年この季節、ヤマハギの濃淡のピンク色やシロバナハギの白色に彩られる。数的にはヤマハギが多いようで最盛期には、淡水池の岸辺までも遠目にも分かるほど濃淡のピンク色で縁取られる。



ちょっと衝撃だったのはバタフライガーデンの一隅に朱色のヒガンバナをみつけた。昨年も咲いていたかしら？聞いてみると2～3年前から棲み付いているらしい、公園内は良く観ているはずなのに見落としていたのだ。ヒガンバナについてはあまり良い話を聞かないが、造形的にはハイカラで繊細で美しい花だと思う。人間の自然への妄想や畏敬の念が、罪の無い花に濡れ衣を着せているようだ。そんな後ろめたい気持ちと、枯れ萎んだ末期の姿がいやで私的にも残念ながらあまり愛でようという気が湧かない。

同じバタフライガーデンにオミナエシが黄色い花を咲かせている。日本語銘記は女郎花と書く。同じオミナエシ科に白い花を咲かせるオトコエシがあり日本語銘記は男郎花と書く。女郎花より強くて丈夫そうに見えるから男郎花と呼ばれるのだそうだ。漢方ではどちらも根を消炎や排膿に使われているという。

最後は公園東側、クリーク沿いに咲く「一日花」、芙蓉の容姿を堪能する。朝咲いて夕方萎むはかない花だからこそ、ゆっくり秋の陽にその命を暖めて欲しいと願う。そしていつの日か「西のハギ街道、東の芙蓉ロード」が実現するといいなあと思っている。

今はまだ公園もセミたちの合唱が喧しい。今夏、歌えきれなかった彼らの歌を今日を最後と放歌しているのか。しかし、あちこちの枝に張るジョロウグモの巣の中の薄衣のような2枚の羽、きっとこれから繁殖期を迎えるジョロウグモに羽だけ残し捕食されたミンミンゼミの遺羽に違いない。クモの糸に絡まれて風に揺れる2枚の薄羽にやはり天下は秋と知る。